マザーウォーター

小林聡美
小泉今日子
加瀬亮
市川実日子
永山絢斗
光石研
もたいまさこ

監督＝松本佳奈
脚本＝白木朋子　たかのいちこ

企画＝霞澤花子　エグゼクティブ・プロデューサー＝奥田誠治
プロデューサー＝小室秀一　前川えんま　木幡久美
ラインプロデューサー＝関友彦　石川竜大
撮影＝谷峰登　照明＝斉藤徹　録音＝古谷正志
美術＝富田麻友美　コスチューム＝堀越絹衣　ヘアメイク＝竹下フミ
フードスタイリスト＝飯島奈美　編集＝普嶋信一　スクリプター＝天池芳美
音楽プロデューサー＝石井和之　平川智司
音楽＝金子隆博　オリジナルサウンドトラック＝バップ
エンディングテーマ＝大賀妙子「マザーウォーター」
メインコピー＝太田恵美　写真＝田尾沙織
製作＝パセリ商会（日本テレビ　バップ　シャシャ・コーポレイション
パラダイス・カフェ　スールキートス　博報堂DYメディアパートナーズ
読売テレビ　D:N:ドリームパートナーズ）
制作プロダクション＝パラダイス・カフェ　配給＝スールキートス
©2010パセリ商会　www.motherwater-movie.com

あしたへは、ダイジなことだけもってゆく。

マザーウォーター

街の中を流れる大きな川、そしてそこにつながるいくつもの小さな川や湧き水。そんな確かな水系を持つ、日本の古都、京都。
そんな京都の街に、風にそよぐように暮らし始めた、三人の女たち。ウイスキーしか置いていないバーを営むセツコ（小林聡美）。
疎水沿いにコーヒーやを開くタカコ（小泉今日子）。そして、水の中から湧き出たような豆腐を作るハツミ（市川実日子）。
芯で水を感じる三人の女たちに反応するように、そこに住む人たちのなかにも新しい水が流れ始めます。
家具工房で働くヤマノハ（加瀬亮）、銭湯の主人オトメ（光石研）、オトメの銭湯を手伝うジン（永山絢斗）、そして“散歩する人”
マコト（もたいまさこ）。そんな彼らの真ん中にはいつも機嫌のいい子ども、ポプラがいます。

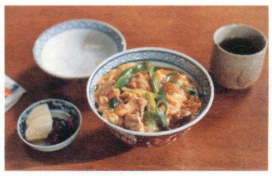
人と場所、そんなシンプルな関係性だけで、『かもめ食堂』『めがね』『プール』という三作を作ってきたプロジェクトが、新作
『マザーウォーター』で遭遇した場所は、不変な美意識の中に、ひたひたと進化を続けている街、京都でした。
ヘルシンキ、与論島、チェンマイ、どこに行っても変わることなく、大らかな人と場所との関係性を保ち続けることが出来たのはなぜなのか。そんなことをあらためて意識しながら、その感覚の素を感じ、体現してみたいと思ったとき、京都という場所にたどり着くのは必然だったのかもしれません。

健気に自分を見つめながら暮らして行く、そんな日々の描写以外、物語のない物語。
誰もが生きている、現実の世界、その隣り合わせにあるかもしれない、そんな物語。
心で心を感じながら不器用に生きている、だからこそストレートに、何かを感じさせてくれる登場人物たち。

ドコにいて、ダレといて、ナニをするのか、そして私たちは、ドコに行くのか・・・

今一番だいじなことはナンなのか。そんな人の思いが静かに強く、今、京都の川から流れ始めます。

【マザーウォーター】
ウイスキーの仕込み水に使われる水のこと。



小林聡美、小泉今日子、加瀬亮、市川実日子、永山絢斗、光石研、もたいまさこ

監督：松本佳奈　脚本：白木朋子　たかのいちこ　オリジナルサウンドトラック：バッブ　配給：スールキートス　©2010 パセリ商会　2010年／日本／カラー／35ミリ／アメリカンビスタ／DTS SR／105分

10／30（土）全国ロードショー

特別鑑賞券一般1,500円（税込）ペア券2,800円（税込）絶賛発売中
〈当日一般1,800円（税込）／ペア券3,600円（税込）のところ〉　※一部劇場を除く
劇場窓口にてお買い求めの方に限り、先着限定で「マザーウォーター」マグネットをプレゼント！